

「新しい始まり」 マタイによる福音書 3章 13-17 節

1月6日の公現日が終わり、教会の暦では人間として生きたイエス・キリストについて、共に思うときです。この箇所少し前には、バプテスマのヨハネ自身が「悔い改めよ。神の国は近づいた。」と言って、人々に洗礼を授けていました。今日の聖書箇所のテーマも、「悔い改め」です。今日の聖書箇所から、改めて私たちにとって、教会にとって「洗礼」がどのような意味があるのか、考えて行きたいと思います。

洗礼・バプテスマとは、水の中に「浸す」や「洗う」という意味の言葉から、その名が付けられました。旧約時代、祭司が神殿で祭儀を行うときには、自分の体を洗って清めてから行った、一種の宗教的な清めの儀式として水で体を洗ったのが始まりだとされています。新約時代になると、異邦人がユダヤ教に改宗する際に、水の中で自分の体を洗う式が行われていたのです。ところが、洗礼者ヨハネは、異教徒に向かってではなくユダヤ人たちに向かって、洗礼を受けよと言いました。「自分はユダヤ人だと思って安心するな。ユダヤ人だからといって救われるのではない。悔い改めて、心を新たにし、神の憐れみを求めよ。」と、ユダヤ人こそ心を新たにすべく洗礼を受けることが必要だと訴えたのです。ここにヨハネの洗礼の新しさと意味があります。そしてもう一つ、ヨハネの洗礼には大切な意味がありました。それは、まことの洗礼、つまり、新しく生まれ変わるためのものでした。新しくなるために、罪を洗い流すためには、決して水で洗い流すだけですむはずがありません。そこでヨハネは洗礼を受ける人々に、このように教えました。「わたしは悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしより後に来る方は、わたしよりも優れておられる。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになるだろう」と。そして、今、まさにその方がいらした。イエス・キリストが受けられた洗礼は、ヨセフの言っていたことが全て成就するためのものでした。そしてまた、イエス御自身が洗礼を受けた時に起こったこと、それも私たちにとってとても大切なこととなります。

ヨハネが「聖霊と火で洗礼を授けてくださる」と言ったのは、わたしたちの主イエス・キリストのことです。イエス様は、私たちのすべての罪を赦し、すべての過去を清め、新しい命を与え、新しい人間として生まれ変わらせてくださる、救いを私たちに与えてくださるお方なのです。私たちの受けた「洗礼」とは、このイエス・キリストの洗礼・バプテスマなのです。聖霊と火によって、イエス・キリストの洗礼を受けたのです。聖霊は私たちを愛し、私たちを新しく生まれさせる神様の愛の霊です。そして火もまた、私たちの罪を焼き、過去を清める、やはり神様の愛の炎なのです。私たちが洗礼式において注がれたのは水ではなく、神様の愛であり、私たちを清めたのも水ではなく神様の燃えるように熱い愛なのです。

神様が愛をもって私たちに教え、導き、約束してくださっている言葉を、信じていきましょう。信じるならば、私たちはどんなに大きな神様の愛の中に生きているか、きっと分かることでしょう。そしてイエス御自身が私たちと同じように洗礼を受けられたと言うことは、私たちも主イエスと同じように神の福音を宣教する一人として、その道を示された者なのです。私たちは主イエス・キリストの洗礼によって、新しい人間として、神様の愛の中に生まれた者として、この一週間も、新しい一年も日々新しく変えられて祈りによって過ごしていきたいと願います。